

# IPSJ 全国大会論文フォーマット (タイトル)

氏名<sup>†1</sup> 氏名<sup>†2</sup> 氏名<sup>†3</sup>  
所属<sup>†1</sup> 所属<sup>†2</sup> 所属<sup>†3</sup>



図1 トラ

## 1 はじめに

毎年3月に開催される情報処理学会全国大会は、原稿のテンプレートが Microsoft Word しか公開されていない。そこで、Word テンプレートをもとに、非公式 L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X テンプレートを作成した。本稿では本テンプレートの使い方を解説する。

## 2 ソースファイルの構成

### 2.1 プリアンプル

- `\title`, `\etitle`: 和文表題, 英文表題
- `\author`, `\affiliation`: 和文著者名, 和文所属
- `\eauthor`: 英文著者名および英文所属。1 行に著者 1 名の情報をを記入し、`\\`で改行すること。

### 2.2 タイトルの表示

`\maketitle` および `\makeetitle` によりタイトル (題目, 著者, 所属) および脚注の英文表記が出力されるため、消さないように。

### 2.3 本文

IPSJ 全国大会の原稿は A4 で 2 ページ、かつファイルサイズは 2MB 以下である必要がある。

### 2.4 箇条書き

番号無し箇条書きは、下記のように出力される。

- 項目 1
- 項目 2

番号付き箇条書きは、括弧付きで表示されるようにスタイルファイルで設定している。

- (1) 項目 1
- (2) 項目 2

### 2.5 図

図 1 のように、PNG 形式のほか、PDF 形式の図形ファイルを取り込むことができる。

表 1 Table style based on Journal of Information Processing

	ヘッダ 1	ヘッダ 2	ヘッダ 3
項目 1	データ 11	データ 12	データ 13
項目 2	データ 22	データ 22	データ 22

## 2.6 表

本テンプレートでは、情報処理学会論文誌の書き方に準拠して、表 1 のように罫線を少なくして仕上がりスッキリさせている。図と同じく、キャプションは英文で記載する。下記の点に気をつけて表を作成すること。

- 表の最上部の罫線は `\hline\hline` として二重線とする。
- 表の最下部は一重線とする。
- その他の罫線は見出しとデータの境界などに限定する。

## 2.7 図表の参照と配置

本文から図表を参照する場合は、情報処理学会論文誌の L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X テンプレートで使われる下記のマクロを利用する。

- `\figref{x}:\label{x}` を設定した図の参照
- `\tabref{y}:\label{y}` を設定した表の参照

図および表は段落の途中で掲載するのではなく、ページ上部か下部のどちらかに寄せて配置する。すなわち、`\begin{figure}[z]` および `\begin{table}[z]` の `z` の部分には、“t” (上部) または “b” (下部) のいずれかとする。

## 2.8 参考文献

参考文献は最後の `thebibliography` 環境に記載する。文献情報は `\bibitem{label}` の後に、著者名、掲載誌名、巻、号、ページ、発行年などを入力する。書き方の一例として論文誌 [?], 国際会議 [?], RFC[3] を示す。

## 3 まとめ

本稿は非公式 L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X テンプレートに基づいて作成されている。本稿のソースファイルをコピーして必要な箇所を修正すれば、公式テンプレートのフォーマットにほぼ準拠した原稿 PDF を作成できるため、是非利用してほしい。

## 謝辞

謝辞を記載する必要がある場合は、ここに記載する。不要であれば `\subsection*{謝辞}` ごと削除する。

## 参考文献

- [1] 松岡 穂, 鈴木秀和, 内藤克浩: 拡張 NTMobile を用いたアプリケーションレベルで実現するシームレス IP Flow Mobility, 情報処理学会論文誌, Vol. 63, No. 1, pp. 130–142, 2022.
- [2] H. Suzuki, K. Naito, K. Kamiyano, et al.: NTMobile: new end-to-end communication architecture in IPv4 and IPv6 networks, Proc. of ACM MobiCom 2013, pp. 171–174, 2013.
- [3] C. Perkins: RFC 5944, IETF, 2010.